

## 「異邦人が福音を受け入れる」

2016年06月14日

使徒言行録 13章 44節～52節。次の安息日になると、ほとんど町中の人々が主の言葉を聞こうとして集まって来た。しかし、ユダヤ人はこの群衆を見てひどくねたま、口汚くものして、パウロの話すことに反対した。そこで、パウロとバルナバは勇敢に語った。「神の言葉は、まずあなたがたに語られるはずでした。だがあなたがたはそれを拒み、自分自身を永遠の命を得るに値しない者にしている。見なさい、わたしたちは異邦人の方に行く。主はわたしたちにこう命じておられるからです。『わたしは、あなたを異邦人の光と定めた、／あなたが、地の果てにまでも／救いをもたらすために。』」異邦人たちはこれを聞いて喜び、主の言葉を賛美した。そして、永遠の命を得るように定められている人は皆、信仰に入った。こうして、主の言葉はその地方全体に広まった。ところが、ユダヤ人は、神をあがめる貴婦人たちや町のおもだった人々を扇動して、パウロとバルナバを迫害させ、その地方から二人を追い出した。それで、二人は彼らに対して足の塵を払い落とし、イコニオンに行った。他方、弟子たちは喜びと聖霊に満たされていた。

パウロはピシディア州アンティオキアの会堂で、主イエスの十字架と復活によって罪の赦しが告げられ、信じる者は皆、神に義とされ、あるがままのあなた方を「よし」と是認される解放の福音を語った。モーセの十戒を中心にした律法を守ることによって神からの義に与ると信じていた彼らは、聞いたことのない福音を聞いて喜んだ。次の安息日にも同じことを話してくれるようにと頼まれ、パウロの説教は大きな反響を呼び起こした。

次の安息日、パウロの説教のうわさを聞いた町中の人々が集まって来た。ところが、ユダヤ教に固執する人々は、集まった群衆が熱心に聞くのを見て、ひどく妬み、口汚くものして、パウロが説教することに反対した。彼らは律法を厳守することによって神からの義をいただくというユダヤ教信仰が正しいと信じ、パウロの語る「信仰による義」に猛反発した。そこで、パウロとバルナバは「神の言葉は、まずあなたがたに語られるはずでした。だがあなたがたはそれを拒み、自分自身を永遠の命を得るに値しない者にしている。見なさい、わたしたちは異邦人の方に行く」と言い放った。パウロの説教のうわさを聞いて町中の人々が集まったように、古代社会の人々は宗教に関し、強く深い関心を寄せていた。そして、多くの宗教は戒律を厳格に守り、度を越した献身を要求するもので、それに応える者が救いに与ると信じられていた。「信仰義認」は律法や献身に関わりなく、主イエスを信じる者を救う、諸々の規定からの解放を約束する福音で、異邦人は喜んで受け入れた。しかし、ユダヤ教徒たちは、自分たちの勢力が壊されることを恐れたのである。

パウロとバルナバは更に、イザヤ書 42章 6節の「わたしは、あなたを異邦人の光と定めた、／あなたが、地の果てにまでも／救いをもたらすために」を引用し、宣教者を世界に救いをもたらす「異邦人の光と定めた」と預言されていると続けた。これを聞いた異邦人たちは喜び、神を賛美し、信仰に入った。主イエスの福音は、この地方全体に広まっていた。ところが、ユダヤ人たちは異教徒からユダヤ教に改宗した貴婦人たちや町の有力者たちを扇動し、パウロとバルナバに迫害を加え、二人を町から追い出した。二人は彼らに対して、抗議のしるしに足の塵を払い落とし、アンティオキアを去り、次の町イコニオンに向かった。しかし、異邦人が福音を受け入れたことを喜び、聖霊に満たされ、宣教活動を続けた。異邦人たちの福音の受容は、新しい展開を約束した。